2023年7月7日（金）河北新報　掲載

小水力発電で過疎集落支援

仙台の深松組 創業地・富山に建設

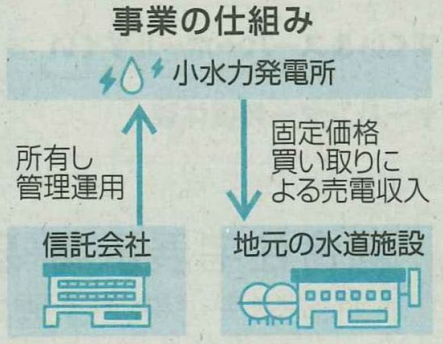
売電収入を水道施設費用に

小水力発電所の竣工式で、発電所のスイッチを押す関係者

仙台市の土木建築業「深松組」は、富山県朝日町の笹川に建設した小水力発電所の竣工式を開いた。固定価格買い取り制度（FIT）と信託方式を組み合わせた日本初の取り組みで、売電収入を地元の過疎集落の水道施設費用などに充てる。深松努社長は「今回のスキームが全国に波及し、地方の人々の生活を支える助けになってほしい」と期待を込めた。

発電量は1時間当たり199キロワットで、年間発電量は一般家庭約284世帯分の年間使用量に相当。FITは再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定期間、国が定めた価格で買い取る仕組み。発電で得た収入を同町笹川地区に新設する水道施設や発電所の建設費用に充てる。

老朽化した現在の水道施設の更新費用約3億円を地元だけで捻出することが困難だったことから、今回の事業が始まった。信託会社が発電所を所有し管理運用することで、持続可能な事業運営を目指す。



県東部の山間部に位置する笹川地区には約100世帯228人が居住。笹川は年間を通じ流量が豊富で、小水力発電に適しているという。地元住民が付近の草刈りや見回りなどで協力する。

信託会社のすみれ地域信託（岐阜県高山市）の井上正社長は「地元の方々が安心して水道を使えるよう責任を持って発電所を管理していきたい」と語った。

発電所の運転は6月2日に始まり、竣工式は30日にあった。

深松組は1925年、朝日町で創業。主に水力発電所建設に携わった後、53年に本社を仙台市に移した。